英　語　科

英語学習上のつまずきの分析とその効果的指導の工夫

高橋　恵亮　　倉田　有邦　　宮田　　学
山田　雄一　　伊藤　悟由

〔I〕文構造の理解と内容把握

――andを中心に――

（継続研究2年目）

1. はじめに

昨年度より我々英語科は，高校段階における英語において，生徒に等位接続詞（特にand）に着目させ，それによって，構文を立体的にかつ全体を見る力を養うことを目標に，この研究を始めた。開始時にあたっての研究動機，昨年度の経過は．本校研究紀要23集（1978年度版）を参照されたい。今回は，暗中模索的に始まった我々の研究が，2年目にどのような方向に動いていったかを報告したい。

昨年度は，中高各教科書から等位接続詞（and,but, or）の含まれる文を抜き出し，カードでそれを整理し，類型化し，その後，指導に役立つと思われる文をタイプ別に精選して，andの指導マニュアルとでも言うような，プリント7枚からなる〝andの例文集〟を作成し，その後，高校一年生を対象に，andの理解度を調査するためのテストを実施し，誤答分析をし，どのような点で生徒がつまずき，構文全体の理解を妨げているのかを調査した。その調査結果に基づき，今年度は〝andの例文集〟を活用し，新しい高校一年生に系統的指導を加え，中学校英語に比べると急に複雑・難解になる高校英語，特にリーダー分野における英語の理解の手助けを少しでもしたい，というのが当初の計画であった。

本校授業研究グループが昨年実施した，好きな科目と嫌いな科目のアンケート調査によると，中学生全体で，英語を好きな科目の中に答えたもの116人，嫌いな科目の中に答えたもの65人で，好きというものが嫌いというものの約2倍いたのに対し，高校生全体になると，好きな科目の中に答えたもの102人，嫌いな科目の中に答えたもの125人で，その立場が見事に逆転している。(注．本校は中学各学年2クラス，高校は各学年3クラス）その理由はと言えば，先に述べた通り内容の急激な難化であろう。中三から高一への一年で，かなりの数のものが確実に，わかっていたはずの英語がわからなくなっているのである。私は本年，新高校一年生のリーダを受け持つにあたって，少しでもそういう生徒の数が減ることと，いつまでも英語が興味の持てる，好きな科目であってくれことを願い，英語の授業を始め，andの指導がそれに少しでも役立つことをもくろんだのである。

2. 経過

(1) 授業を通しての指導

〝andの例文集〟は，中学教科書から採用したものもあるが，そのほとんどは高校教科書からのもので，又，参考書から選んだ非常にハイレベルのものもあるので，それを最初から活用するのは困難であると考え，最初のうちはリーダーの教科書にでてくる等位接続詞を予習プリントの中で，折あるごとに着目させ，構文を正しく理解させるようにした。

蛇足かも知れないが，ここで私のリーダーの授業の方法を簡単に紹介させていただく。教科書（UNICORN ENGLISH READERS 1　文英堂)では，最初にそのレッスンのポイントとなる例文がいくつか列挙され，その後で本文という構成になっているので，それに従い，最初の2，3時間をポイント，その後本文に入るという授業形式をとった。生徒に対しては，予復習用のプリントとして，①ポイントの補足・練習用プリント，②本文全体の内容をとらえるための，SUMMARY CHECK のプリント（日本語による内容質問，英問英答，大意を日本語又は英語で書かせたり補充させる，等内容は様々）③本文を正確に読みとらせるためのCHECK OF YOUR READING のプリント，の3枚を主に，その課の授業開始時に生徒に配布した。余白に単語のまとめや，参考をのせることもあるが，この3枚を活用して予復習を充実するよう指導した。ポイントをしっかり把握した上で，本文を通読して大意をつかみ SUMMARY CHECK のプリントで内容をチェックし，その上で CHECK OF YOUR READING の

プリントで詳しく正確に本文を学習してゆくというオーソドックスな方式である。ポイントのプリントは主として授業での説明・補足・練習に用いたが，後の2枚は，生徒が本文を読む上での手助けとなるように留意した。つまり予習時においては，それを手助けに本文が読めるように，授業時には，自分のわからないところ，大切なところに着目して聞けるように，復習時には，本当に本文を理解できているかチェックできるようにである。

さて，本題に話を戻すと，CHECK OF YOUR READING のプリントで次のように折にふれて and に着目させることにした。教科書 LESSON 1 の冒頭の部分である。

LESSON 1

When spring comes, I always want to jump for joy and to sing to the skies. I am now a schoolteacher, but I feel like climbing trees or running in the fields. Do you think this is strange? Well, you see, I never saw spring until I was thirteen.

I was born and brought up in Florida. There are beautiful white beaches and blue, blue water. But there is no real spring or fall; only brown "winters" and burning summers.

Then we moved to New York. We lived in the countryside. It was about an hour and a half by train from New York City. There I was winter for the first time . . . and snow. Snow! I remember the first day. I way so happy that I tried to catch every snowflake. They were crisp and tiny. How suprised I was! They were not big and fluffy as you see them in movies.

Then the miracle of spring! Little flowers one day appeared through the snow. How can they survive the icy cold? I lay in the snow and wondered at their beauty. Soon the narcissus and daffodils came up through the ground. I loved to put my face among their cool, clean blossoms and smell their perfume. They are such friendly flowers! When you speak to them, they happily nod their heads. For the first time, too, I saw hills covered with apple blossoms like pink clouds.

Every day the world became greener and greener. There were suprises everywhere: a violet under an evergreen tree, strawberries in the meadow. Every day after school I walked in the woods and meadows and gathered wild strawberries until it was dark.

Sometimes my friend and I made garlands of daisies and clover, and we wore them like crowns.

Florida [flɔ́ rədə]
New York [njuː jɔ́ ʳk]
tiny [táini]
fluffy [flʌ́fi]
survive [səʳváiv]
narcissus [naʳsísəs] *pl*
daffodil (s) [dǽfədil(z)]

---

4. **you see:** *You see,* Japan is an old country.
6. **born,** *pp.* <bear
bring up: She *brought up* three chidren.
8. **fall**=autumn.
brown "winters" *Cf.* white Christmas
9. **burning**=very hot.
12–3. **for the first time:** I went there *for the first time.*
20. **came up through the ground** *Cf.* appeared through the snow (*l.* 18)

blossom (s) [blɑ́səm(z)]
perfume [pə́ ʳfjuːm]
n.
evergreen [évəʳgriːn]
strawberries [strɔ́ːberiz]
<**strawberry**
meadow [médou]
garland (s) [gɑ́ ʳlənd(z)]
wore [wɔː ʳ]
<wear

---

4. **such**=very.
14–5. **after school:** We played tennis *after school.*

Persephone
(a Greek relief)

HI-UNICORN LESSON 1
--CHECK YOUR READING--

p.2 1.2 andは何と何を結ぶか。
2 skies は何故複数形か。
3 or は何と何を結ぶか。
6 andは何と何を結ぶか。
7 blue, blue waterの適訳は。
8 Why is there no real spring or fall?
9 burning は現在分詞か動名詞か。
10 New YorkはNew York CityかNew York Stateか。
13 the first dayとはどういう日か。
15 surprisedの品詞は。
17 one dayの文中での働きは。

18 His wife survived nim a few years.
The crew survived the shipwreck. を訳せ。
19 cold の品詞は。
19 lay の動詞変化は。
20 came up を一語で言え。
p.3 1.3 blossoms とは何の花か。
and は何と何を結ぶか。
4 They are such friendly flowers! を感嘆文にせよ。

このようにして，特に集中的な指導ではないが，常に構文を立体的に見るよう生徒に心掛けさせ，一年近く経過した。そして3学期末の数回の授業で，〝and の例文集〟を使って，一年のまとめとして類型別にまとめた andの指導を施したのである。

(2) andの集中授業

プリント7枚からなる andの例文集，THE USE OF "AND" and THE BETTER UNDERSTANDING OF SENTENCE STRUCTURE（本校研究紀要 23集参照）を生徒に配布し，モデルの例文と比較的安易な例文を立体構造化させる指導をした。例えば次のようである。

例1. Mike and Tom are good friends.

→ [Mike] and [Tom] are good friends.

例2. George Gershwin was born and brought up in New York City.

→ George Gershwin was [born] and [brought up] in New York City.

例3. Tom sits under a tree and begins to eat the apple.

→ Tom [sits] under a tree and [begins] to eat the apple.

このように平易なものから始め，最終的にはかなり難しいものも立体構造化させる練習をした。

例1. Thus, you will find it necessary to step outside of your own narrow circle of expeience and place yourself in another frame of mind.

→ Thus, you will find it necessary to [step] outside of uour experience and [place] yourself in another frame of mind.

例2. When they get there, a lot of them will want to do nothing more than lie in the sun and cook themselves to a deep grown color.

→ When ..... more than and [lie] in the sun [cook] themselves to a deep brown color.

例文集のより高度な文のいくつかは，春休みに自分なりに立体化した上で内容をとるよう宿題にし，新学年を迎えた。

(3) "and"の理解度テストの実施・分析

新学年早々，52年度高校一年生に実施したのと全く同じの"and"の理解度テストを，53年度高校一年生（新高二）に実施した。（テスト問題は本校研究紀要23集，1978年度版参照）52年度高校一年生は11月，53年度一年生には，新高二になっての4月（54年）と，実施時期に5ケ月の差はあったが，その他は条件的に同じになるよう配慮した。問題Aは，and を抜いておいた問題文の適所に and を入れさせる問題，問題Bは訳させる問題で，問題Bでは，and が何と何を結んでいるか示させた。

当方としては，一年間の折にふれての指導と，集中授業の後なので，かなりの成果を期待したのであるが，結果的には，A，B両問題共に，正解率は昨年とほとんど変わらぬ状況であった。昨年と同様に誤答分析をしてみると，誤答傾向にちょっとした変化が現れていたので，昨年の誤答分析表をもとに，それを比較してみたい。

a） 昨年よりも増えた誤答

1.意味を考えずに不用意に形だけを見てしまう。

2.単語＋単語という最も簡単な結びつきを意識しすきていて，一番近いもの同士を不用意に結んでしまう。

b） 昨年よりも減った誤答

1 ある一つのかたまりで意味をとると，それを分離して次のかたまりへと移行してしまう。

2 準動詞の働きを考えず，前のまとまりで区切ってそれを述語動詞のように解してしまう。又本来動詞でないものまで，述語動詞のように解してしまう。

この例が，著しく現れた問題Bの6で，その数値を紹介してみよう。

B−6

Men have left their business and their families and homes and gone to the West searching for gold and to become millionaires.

において，

①の and の前で文を区切ってしまったもの（昨年 13 6％／今年 6 8％）

④の and に関して

ア）to the West + to become と形だけをとったもの（昨年 2.8％／今年 18 2％）

イ）and の前で文を区切り，to become を述語動詞のように考えたもの（昨年 13.6％／今年 11 4％）

ウ）Searching for gold + to become millionaires と正しく考えたもの（昨年 40.9％／今年 43 2％）

このようなことからみると，確かに昨年に比べて，文を平面的に前からだけ考えることによる誤答は減ったが，あまりに and か何と何を結ぶか意識しすきて，形だけにとらわれて，考えられないような誤答が激増してしまったのである。同時通訳に見られるような，前から前から文を受けとめてゆく自然な解釈法に逆らった指導の大きな破綻だったのかも知れない。

とにかくある程度の指導を加えたのに，正当率が伸びなかったという事実をしっかり受けとめて，指導法改善につなげるべきである。

さて，その理由は，生徒の質的低下ということも考えられるか，当然ここでは同程度，もしくはテスト実施時期からいえば，質的向上を考慮しなくてはいけない状況である。生徒が形にあまりにもとらわれすきて全体としてのまとまった意味内容を考えない，というのがもちろんその主因である。そういえば，私は授業において，「君たちは英文を読む時，前から意味だけを追いかけ，つなげていって構文全体の正しいつなかりをこわしてしまうことが多い。」と何度か言ったことを記憶する。意味上からのアプローチに対して，形からのアプローチをあまりに強調しすきたために，このような結果になったのだろう。本来のリーダーの授業は英語という言語を通して，各種教材を興味を持って読み，英語文化に触れてゆかねはならないところだが，あまりに構文にとらわれすきて，おもしろくない授業になっていなかっただろうか。かえって英語嫌いを増やす結果になりはしなかっただろうか。そんな懸念も含めて，この後一クラス44名に対してアンケート調査をするに至った。

(4)アンケート調査より

54年4月中旬，新高二1クラス44名に対して，次のようなアンケート調査を行なった。

(a)まとまった英文を理解する上で，次のどの力の順に必要であると思うか。順に記せ。

ア，単語力　イ，構文を見る力　ウ，文法力

(b)英文を理解する時（日本語に直す時），どのような手順で理解していくか。

(c)and の指導，特に〝and の例文集〟を使った集中授業を受けての感想をなるへく具体的に書け。又，こういった教科書から離れた集中授業を受けて，英語の見方がどのようにかわったか書け。

その結果は次のようであった。

(a)においては，

イ−ア−ウの順	18	（成績上5中9下4）
ア−イ−ウの順	15	（成績上5中5下5）
イ−ウ−アの順	8	（成績上3中2下3）
ア−ウ−イの順	2	（成績上1中0下1）
ウ−イ−アの順	1	（成績上0中0下0）
ウ−ア−イの順	0	

右のかっこの中は，44人を成績順に上14，中16，下14と機械的に配分したものである。構文を見る力が最も必要であると答えたものが大多数いたのは，やはり，and の指導をくり返し受け，構文の重要性を意識したせいであろう。特に成績中間層に多いのは，おもしろい。上位層のものは感想において，「構文をつかむのも大切だが，わからない単語がいくつかあるとどうにもならない。しかし，単語がわかっていれば構文も自然にわかってくる。だから単語力が最も必要だ。」と答えるものが2，3いた。従って〝and の例文集〟を使った授業に対しても，こちらの危惧どおり，「むずかしい単語が多すきてやる気がうせる」とか，「日本語に直しても何のことを言っているのかわからない」という感想があった。これは例文の多くが高校リーダーの教科書からの抜き出してあり，その部分だけを見ても前後関係がわからないと意味をなさないものが多

くあったからだ。この点は大いに反省しなくてはいけない。(b)の項でも上位層と，中下位層とに隔たりが現われた。上位層では，「まず一読して全体の意味を考え，その上で構文や文法を考えながら日本語に直してゆく」というようなものがあったのに対し，中下位層においては一つもそれに類したものは見られず，「まずどれが主語でどれが動詞か考え……」とか，「まず単語の意味をすべて書き出し……」とかいったふうに，アンバランスに英文を見ているのである。英文を理解する上では，当然のことながらバランスのとれたアプローチが必要で，構文にしろ，全体の意味内容にしろ，文法事項にしろ，何かを無視することによって，他のものをも誤解する原因になる。そういうことから and の指導においては，あまりに構文にウェイトをおきすぎたことを反省している。

さて生徒の方はこの〝 and の例文集〟を使った指導をどうとらえているか。私の主観的判断ではあるが，何らかの形で役にたった，即ちプラスの感想を持ったもの26人，役にたった面もあるが，マイナスの面もあったというプラスマイナス双方を書いているもの13人，マイナスのもの２人，全々関係のないどっちつかずの感想のものが３人であった。代表的な意見をあげてみると，（すべて原文のまま）

(+)英文を訳す時に，最初から日本語に訳していってあとで内容をつけたしたりしたけれど，こうすると意味がわからなくなったり，違ってきたりしたので and を勉強して文を立体的に見て，そしてそれから訳すようになったので，文の意味や構造もわかるようになった。……（成績中のもの）

(+)…… 接続詞などのこういう勉強をすると，今まで習った教科書だけしか訳せなかったのが，いろいろな文章を訳せることができる応用力が身についたように思います。……（成績上）

(+)……ただばくぜんと訳していた一年の始めに比べると，だんだん文の構造がはっきりととらえられるようになった。　（成績上）

(±)……このように一般的なことをやってもらうと，わからないながらも，これから活用できそうな気がして，新しい文章を読んでみたい気になった。だけど and のプリントは単語がむずかしすぎて少しやっただけであきてしまった。　（成績中）

(±)こういう授業をやってから，なんか英語が余計にむずかしく感じるようになって，ますます英語が嫌いになったが，もし今後，この授業を受けたおかげて，10問中１問でも答えられるようになったら，ぼくはそれでよいと思う。

(−)……ばらばらの文を読むより，まとまった文章を読む方がおもしろいし，理解しやすいと思う。（成績上）

全体として〝文が立体的に見られるようになってよかった〟というところに一つの成果を見出したい。もちろんこれがすべてではないので，今後いろいろな英文を読む上で，生徒がこのことを覚えていて，一つでも誤解を少なくしてくれればよいと思っている。又，もう一つ安心したのは，思いの他，英語が嫌いになったという生徒が少なかったことである。〝もっと新しい英文を読みたい気になった〟というものがかなりいたのに対し，気力を失った生徒がほとんどいなかったのが幸いである。理解度テストでは目に見えた成果はなかったが，今後どこかで役にたつと確信する次第である。

3. まとめにかえて

〝構文〟といういかめしい言葉を聞くと，ぞっとする英語ぎらいの生徒も多いであろう。現在の高校教育における英語では，特に普通科高校では，大学受験をいやおうなしに意識せざるをえない。多くの受験参考書が構文別に例文をまとめあげている。単語にしても文法事項にしてもそうである。果たして生徒が本当に興味を持ってそういったものに取り組んでいるのだろうか。構文だの，文法事項だのまとめたり，意識させたりすることこそ英語への興味を減退させる一因かも知れない。そういう中で，and という身近なものから構文へアプローチしたのが，英語が嫌いになる生徒を多少は少なくしたのかもしれない。いまのところ一応生徒のやる気を持続させていると考えたい。そして願わくば，今後，より難しい，やる気をそぐような英文に出会った時も，そういう手がかりをもとにぶつかっていってほしいと思うのである。

受験を意識しながらも，いかにおもしろく英語を教えるか。語源から単語を覚えさせたり，教科書以外の身近な，興味のもてる英文を読んでみたりもした。この and の指導にしても，そういう試みの一例にすぎないと思うが，試行錯誤しながらこの一年で一つの方向に動き出せたことに満足し，今後は，理解度テストで出た失敗をもとに，バランスを考えながら指導を継続してゆきたいと思っている。生徒たちも自ら言っているように，この試みが成果を得るか得ないかは，今後彼らが難解な壁につき当たった時，それを打破する糸口になり得るかということだと思う。私も彼らがそういう壁につき当った時には，是非ともこの経験を生かして手助けしたいと考えている。

昨年，本年の拙文をお読みになって，御指導，御意見を承れたら幸いと思っております。

（山田　雄一）